

Title	青森県下北半島における旧石器時代遺跡の立地と生業に関する考古学的研究
Sub Title	The archaeological study about location and subsistence of paleolithic sites in the Simokita Peninsula.
Author	渡辺, 丈彦(Watanabe, Takehiko)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2020
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究の目的は、津軽海峡南岸域「下北半島北端」を研究対象に、異なる生業活動の場である開地遺跡と洞穴遺跡を発掘調査し、出土遺物の比較研究をおこなうことで、同時期の北海道から本州島へ的人类(文化)の流入の在り方を具体的に示すことにある。研究初年となる令和元年度は、同地域において特に洞穴・岩陰の分布調査を集中的におこない、これまで未知の洞穴・岩陰を複数発見、うち1ヶ所については試掘調査も実施した。同洞穴では人類利用の痕跡は確認できなかったものの、他の未調査の洞窟も考古学的条件は良好であり、次年度試掘調査を実施する予定である。</p> <p>また下北半島と同様に有数の石灰岩地帯とされる岩手県北上山地に所在し、過去の発掘調査において良好な後期更新世動物化石群を産出した花巻市大迫町風穴洞窟他の測量調査・環境調査を実施するとともに、同洞窟出土遺物の実見調査も合わせておこなった。その結果は、青森県下北半島における旧石器時代遺跡の立地と生業活動を明らかにする上で重要な比較検討材料となった。</p> <p>なお、令和元年度調査・研究の一部は、令和元年度青森県埋蔵文化財発掘調査報告会「安部遺跡(尻労安部洞窟)-旧石器時代の洞窟遺跡-」、第33回東北日本の旧石器文化を語る会(秋田大会)「青森県尻労安部洞窟」として口頭発表した。</p> <p>This study is intended to clarify inflow processes of the palaeolithic culture from Hokkaido to Honshu Island. In this year of the study first year, I searched for the new unknown cave and rock shelter intensively in the Simokita Peninsula. As a result, I discovered many caves and rock shelters, and did trial excavations at one of them. But I couldn't discover the culture layer of the palaeolithic age. In the next fiscal year, I am going to excavate other caves and rock shelters where the condition met.</p> <p>Other than the above, as comparative investigation, I investigated pleistocene animal fossil excavated from Kazaana cave site located in the Kitakami Mountains that developed of the limestone</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190262

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	文学部	職名	教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	渡辺 丈彦	氏名 (英語)	Takehiko WATANABE		
研究課題 (日本語)						
青森県下北半島における旧石器時代遺跡の立地と生業に関する考古学的研究						
研究課題 (英訳)						
The archaeological study about location and subsistence of paleolithic sites in the Siomokita Peninsura.						
1. 研究成果実績の概要						
<p>本研究の目的は、津軽海峡南岸域「下北半島北端」を研究対象に、異なる生業活動の場である開地遺跡と洞穴遺跡を発掘調査し、出土遺物の比較研究をおこなうことで、同時期の北海道から本州島への人類(文化)の流入の在り方を具体的に示すことにある。研究初年となる令和元年度は、同地域において特に洞穴・岩陰の分布調査を集中的におこない、これまで未知の洞穴・岩陰を複数発見、うち1ヶ所については試掘調査も実施した。同洞穴では人類利用の痕跡は確認できなかったものの、他の未調査の洞窟も考古学的条件は良好であり、次年度試掘調査を実施する予定である。</p> <p>また下北半島と同様に有数の石灰岩地帯とされる岩手県北上山地に所在し、過去の発掘調査において良好な後期更新世動物化石群を産出した花巻市大迫町風穴洞窟他の測量調査・環境調査を実施するとともに、同洞窟出土遺物の実見調査も合わせておこなった。その結果は、青森県下北半島における旧石器時代遺跡の立地と生業活動を明らかにする上で重要な比較検討材料となった。</p> <p>なお、令和元年度調査・研究の一部は、令和元年度青森県埋蔵文化財発掘調査報告会「安部遺跡(尻労安部洞窟)-旧石器時代の洞窟遺跡-」、第33回東北日本の旧石器文化を語る会(秋田大会)「青森県尻労安部洞窟」として口頭発表した。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>This study is intended to clarify inflow processes of the palaeolithic culture from Hokkaido to Honshu Island. In this year of the study first year, I searched for the new unknown cave and rock shelter intensively in the Siomokita Peninsura. As a result, I discovered many caves and rock shelters, and did trial excavations at one of them. But I couldn't discover the culture layer of the palaeolithic age. In the next fiscal year, I am going to excavate other caves and rock shelters where the condition met.</p> <p>Other than the above, as comparative investigation, I investigated pleistocene animal fossil excavated from Kazaana cave site located in the Kitakami Mountains that developed of the limestone</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
後藤千遥・鈴木伸太郎・佐藤巧庸・太刀川彩子・澤浦亮平・辰巳晃司・佐宗亜衣子・佐伯史子・澤田純明・渡辺丈彦・鈴木敏彦・佐藤孝雄・奈良貴史	安部遺跡(尻労安部洞窟)-北の石灰岩洞窟に旧石器人骨を追う-	令和元年度青森県埋蔵文化財発掘調査報告会(青森県青森市)	2019年12月			
鈴木伸太郎・後藤千遥・佐藤巧庸・太刀川彩子・辰巳晃司・澤浦亮平・佐伯史子・佐宗亜衣子・澤田純明・渡辺丈彦・鈴木敏彦・佐藤孝雄・奈良貴史	青森県尻労安部洞窟	第33回東北日本の旧石器文化を語る会(秋田県秋田市)	2019年12月			
渡辺丈彦	尻労安部洞窟	季刊考古学 151号(特集 洞窟遺跡の過去・現在・未来)	2020年4月(印刷中)			